

# 未来をひらく

「確かな学力」をつけるために、学校と家庭、力を合わせて

## 北九州市の子どもたちの学力の現状

今、求められている学力とは…

本市では、「一人一人に『生きる力』を育む学校教育の創造」を目標に掲げ、全ての学校で取り組んでいます。『生きる力』の3要素（「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」）の一つである「確かな学力」には、知識や技能に加えて、学ぶ意欲や、自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力等まで含まれます。

本年度4月22日に小学校6年生、中学校3年生を対象に全国「斉」で行われた学力・学習状況調査で問われている力は、まさにこうした、知識・技能やそれを実生活の様々な場面で活用する能力であり、子どもたちが変化の激しいこれからの社会を生き抜いていく上で、必要不可欠なものです。しかしながら、本年度の調査結果では、本市の児童生徒の学力の状況を全国と比較すると、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均正答率を下回っています。この調査結果を振り返って、今、求められている力はどんな力か、そのために、学校や家庭でどんな取り組みが必要か、「平成26年度全国学力・学習状況調査報告書」としてまとめました。

### 夢・希望の実現

広がる進路・職業の選択肢

基礎的な知識及び技能

思考力 判断力 表現力等

学習意欲

「学力の3要素」

### 平成26年度 全国学力・学習状況調査結果(平均正答率)

○小学校6年生

	国語A	国語B	算数A	算数B
本市	69.1	52.6	76.2	55.4
全国	72.9	55.5	78.1	58.2
全国平均との差と割合	-3.8 (94.8%)	-2.9 (94.8%)	-1.9 (97.6%)	-2.8 (95.2%)

○中学校3年生

	国語A	国語B	数学A	数学B
本市	77.2	47.6	62.4	54.4
全国	79.4	51.0	67.4	59.8
全国平均との差と割合	-2.2 (97.2%)	-3.4 (93.3%)	-5.0 (92.6%)	-5.4 (91.0%)

概要は市のホームページをご覧ください。

北九州市 全国学力調査 検索

2面につづく

### 子どもの学習を支えるポイント

#### ココがポイント!

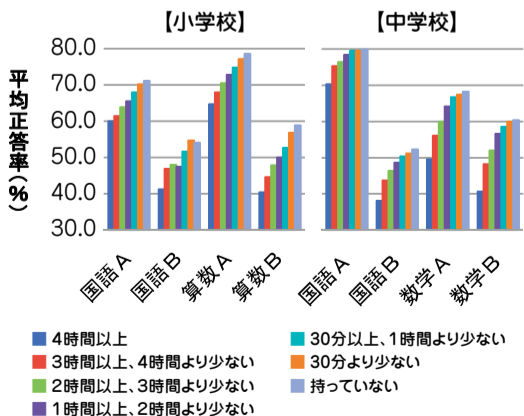
#### ■ テレビやゲーム、ケータイのルールを作りましょう!

ゲームなどをしすぎると、ゲーム脳(物事にキレやすく、時間感覚が欠落し、物忘れが激しくなるなどの症状)になる危険性が高まります。そこで、「夜10時になったら、ケータイの電源を切る。」「テレビやゲームは1日1時間以内」などルール作りが必要になります。ルールを作ったら親子で守りましょう。大切なのは「ルールを守る力」をつけることです。

#### ■ 子どもの自発性を見守り、認めましょう!

子どもの心と体の健やかな成長のためには、規則正しい生活習慣が大切です。生活習慣の乱れは学習意欲、体力、気力の低下の要因です。家族全員で生活を見直し、子ども自身が「自分のことは自分でする」という自発性を身に付けましょう。子どもがやり始めた時は、横を逃さずに「頑張ってるね」の言葉で、自発的な行動を勇気づけることがコツです。

### 平日に携帯電話やスマートフォンで、通話、メール、インターネットをする時間と平均正答率との関係



※メディア接触時間が長いほど、平均正答率が低くなっています。

## 子どもたちの思いと生活の現状

未来への期待ふくらむ  
北九州市の子どもたち

全国学力・学習状況調査では、学習や生活の状況についてもアンケートを行います。その中で、本市では「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがあろう」と肯定的に答えた児童生徒の割合が、小学校・中学校とも、増加傾向にあります。

また、「将来の夢や希望をもっている」と答えた児童生徒は、全国より割合が若干高く、本市の子どもたちが、充実した毎日を送っており、自分の未来に対して希望を抱いていることがわかります。

また、「読書をする時間」「保護者の学校行事への参加についても全国を上回っています。

家庭や地域の方々の子どもたちに対する日々の関わりと、学校行事への関心の高さがこの調査結果からうかがえます。

学力向上にとって、家庭での学習はとても大切です。本市では、家庭で1時間以上勉強をしている児童は増加傾向にはありますが、全国平均と比べるとまだ差があります。更に、家庭での勉強を全くしない児童生徒の割合は全国平均を上回っています。家庭学習の習慣をつけるために、「家庭学習チャレンジハンドブック」などを是非、「活用」ください。

また、メディアへの接触時間についても学力と関係が深く、調査結果からもメディアへの接触時間が長いほど、平均正答率が低くなっていることが明らかになっています。本市では、小・中学校とも携帯電話やスマートフォンを使う時間が増加傾向にあり、全国に比べて長いことが課題となっています。PTA協議会が進めている「ケータイ 夜10時電源OFF運動」などにも積極的に取り組んでいきたいと思えます。

見つめ直そう、  
家庭での過ごし方

### 学習や生活の状況のアンケート結果(抜粋)

	1時間以上	小学校6年生		中学校3年生			
		本市	全国	本市	全国		
家庭学習(平日)の時間について							
全くない	6.8%	5.5%	3.2%	15.4%	14.7%		
平日の読書時間	30分以上	37.3%	39.3%	38.2%	31.2%	31.9%	31.4%
将来の夢や希望をもっている	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	88.2%	86.9%	86.7%	73.1%	71.5%	71.4%

